専門研修プログラム名	竹田綜合病院精神科研修	専門研修プログラム
基幹施設名	一般財団法人竹田健康財団　竹田綜合病院	
プログラム統括責任者	小薗江　浩一	

専門研修プログラムの概要	竹田綜合病院では精神科ベッド144を持つ総合病院精神科であり精神科救急、リエゾン、緩和ケア、合併症治療、児童思春期などの総合病院精神科を学ぶ。竹田綜合病院は県内で最初にクロザピンを導入し、現在も県内最大症例を抱えている。積極的にmECTも行っている。アルコール依存症の集団療法及び入院加療も行っている。会津西病院ではベッド数300を超える単科精神病院で、重厚な単科精神科医療を学ぶ。まだ、同院では専門のARPを有している。福島県立医科大学および会津医療センターでは最先端の研究に触れることができ、研究および論文作成のノウハウを学べる。従って、本プログラムの終了後には、総合的な精神医学的素養を身に着けることができる。	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	竹田綜合病院及び会津西病院では主治医として病棟および外来診療に当たる。会津医療センターでは外来診療と同時に認知症研究に携わる。福島県立医大では主に研究に携わり、論文作成のための検索、論理的思考の構築の学習を行う。	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	傾聴の技術、支持的精神療法を学ぶ。患者・家族に寄り添い、患者の未来を考え全人的な医療を行う。薬物療法の基本を学ぶ。定期的な抄読会、カンファレンス、学会発表、論文投稿により学問的素養を身に着ける。
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	毎週の抄読会に参加し、知識を増大。毎朝の新入院カンファレンスと週1回の拡大新入院カンファレンスに参加し、症例について学ぶ。月1回の会津地域精神科医会に参加して症例検討を行う。また、週1回の総合医局会での抄読会で、他科診療についても学習する。
	学問的姿勢	常に知識の更新をしていく姿勢を重視する。先輩から口頭で指導を受けるだけでなく、常にmed-lineなどのデータベースにあたり、最新の情報を得る。学会にも積極的に参加してもらい学会・論文発表を行う。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	24時間、365日いつでも良質な精神科医療を提供する。総合病院精神科として、どのような合併症があろうとも断らない。患者さんの尊厳を守り、患者さんが安心して生活できる地域社会を目指す。
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	Aコース：　竹田綜合病院2年間、福島県立医科大学半年、会津医療センター半年；　Bコース：　竹田綜合病院2年間、福島県立医科大学半年、会津西病院半年；期間については要相談
	研修施設群と研修プログラム	竹田綜合病院精神科、福島県立医科大学神経精神科、会津医療センター心身医療科、会津西病院精神科の4病院で構成
	地域医療について	会津西病院では認知症初期集中チームに参加。竹田綜合病院では認知症医療疾患センター業務、精神科救急、司法精神医学、リエゾン精神医学を学ぶ。
専門研修の評価	それぞれの施設で研修終了前に複数の担当者で一時評価を行い、報告していただく。	

修了判定	全体の研修終了年前に研修施設の担当者が集合して総合評価を行う	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	研修プログラムの作成、専攻医の採用、判定会の運営
	専攻医の就業環境	それぞれの研修施設で、常勤医として勤務
	専門研修プログラムの改善	年度末に判定会後、新年度のプログラム作成を行う
	専攻医の採用と修了	上述のようにプログラム管理委員会で行う
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	産休、病休の場合は休止を認める。プログラムの移動は研修施設群内での期間及び病院の変更を認める。プログラム外研修については、専門研修プログラム管理委員会で許可が下りた場合、例外的に認めることができる。
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	最低年1回、そのほかに適宜専攻医が研修中にプログラム管理委員会のメンバーが訪問を行う
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。主な情報として医師名、所属、役職を記述してください。	星野修三　一般財団法人竹田健康財団　竹田綜合病院副院長、小薗江浩一　一般財団法人竹田健康財団　竹田綜合病院診療部長、川勝忍　会津医療センター心身医療科教授、三浦至　福島県立医科大学神経神経精神医学講座準教授、羽金淑江　会津西病院院長	
Subspecialty領域との連続性	老年精神医学会、児童思春期精神医学会、精神科救急医学会、日本総合病院精神医学会と連携している　てんかん、司法精神医学、社会精神医学についても症例は多い	